

ラス恋!

いくつになっても、恋をすると働き、消費する？ 40～60代「ラス恋世代」の仕事とお金のリアル

老後資金や物価高への不安が強まる中高年において、恋愛やパートナー探しといった人生後半の出来事が、働く意欲や消費行動にどのような影響を及ぼしているのかは、再考の価値があるテーマである。

近年の調査では、恋活・婚活は健康や生活全般にもポジティブな変化をもたらす傾向が見られ、人生後半の意思決定として捉え直す余地がある。

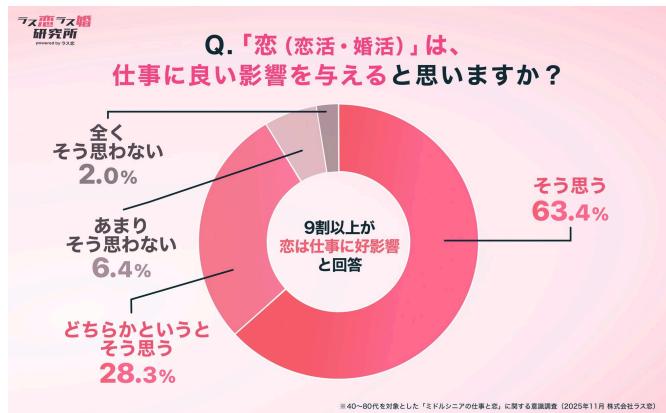
1. ユーザーの就業・現役性の実態

最新の調査によれば、ラス恋ユーザーの現役就業率は極めて高い。

- ラス恋ユーザー全体の現役就業率：93.4%。**60代でも88.7%が現役で働いている。**
- 比較として、総務省「労働力調査(令和6年)」によると、年齢階級別就業率は、男性：60～64歳：84.4%、65～69歳：61.6%、女性：60～64歳：67.9%、65～69歳：43.0%。これらを元に推計すると、**60代全体の就業率は約64%**となる。

恋活層の中高年は、平均を大きく上回る現役性を示している。これは単なる傾向ではなく、人生後半の就業意欲の再構築を示す可能性がある。

2. 恋と仕事のポジティブ関係性



恋愛・パートナー探しと仕事の関係についても、強い肯定意見が見られる。ラス恋調べでは「恋は仕事に好影響を与える」と回答した割合は91.6%に達する。

恋やパートナー探しが仕事のモチベーションや活力につながる可能性があることを示している。

3. 働き続けたい意欲と動機

恋活者の中高年には、働き続けたいという意識も強い。

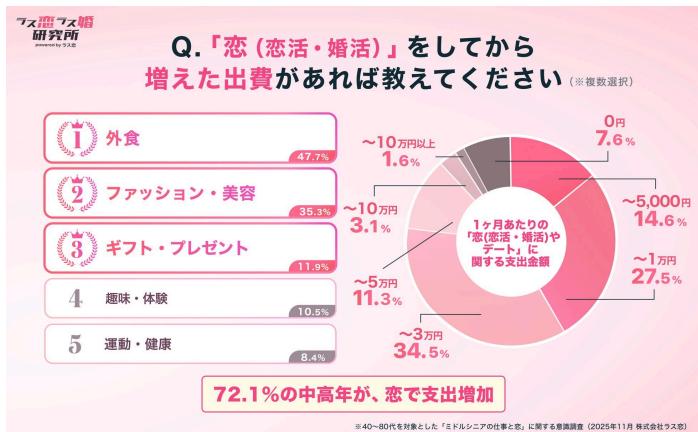
- 全体で47.1%が「65歳以上でも働きたい」と回答している。
- 特に60代男性では64.2%が65歳以上の就業意欲を示している。
- 60歳未満で早期リタイア希望は5.3%にとどまる。

人生後半でも現役感と意欲を維持する層が多く、就業が生活設計の中心になり得る。



4. 消費行動の変化

恋活・婚活を行った結果、個人消費にも変化が見られる。

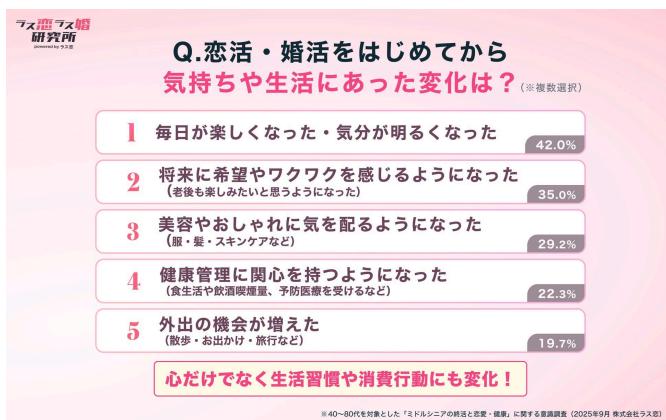


- 72.1%が恋活によって支出が増加したと回答している。
- 増加した支出には外食、ファッション、美容関連が多い。

恋活は中高年の消費活動を活性化する一因になっている可能性がある。

5. 行動・健康・生活満足の変化

別調査からは、恋活が健康意識や生活満足にも関係することが示されている。



- 「恋活・婚活をすることは健康寿命を延ばすと思う」と回答した割合は**87.6%**。
- 「毎日が楽しくなった」：42.0%
- 「将来に希望やワクワクを感じるようになった」：35.0%。
- 「美容やおしゃれに気を配るようになった」：29.2%。

恋活は健康意識・生活満足・行動意欲の向上と同時に動いている傾向がある

ラス恋について（簡潔に）

ラス恋は対象年齢40以上の恋活・婚活マッチングアプリ。「ラス恋・ラス婚研究所」による複数の独自調査により、恋・健康・働く意欲・消費行動の多面的变化が可視化されている。

<取材に関するお問い合わせ先>

株式会社ラス恋 (斎藤) E-mail : marina.saito@aisaac.jp TEL : 050-3091-3201 (直通)